

# 平成25年度 産業建設常任委員会行政視察報告書

平成26年4月22日

1. 日程 平成26年2月4日(火)～5日(水)
2. 視察先等 静岡県掛川市 人口 114,714人 面積 265.63km<sup>2</sup>  
静岡県袋井市 人口 86,859人 面積 108.56km<sup>2</sup>  
(平成25年4月1日現在)
3. 視察事項 掛川市 農商工連携(第6次産業)事業への取組みについて  
これっしか処について  
袋井市 袋井市6次産業化促進支援事業費補助金について
4. 視察者 一行 6名  
委員 滝沢 茂秋 副委員長 山田 義栄 委員  
中野 元栄 委員 茂岡明与司 委員  
当局 美原 暁 農業委員会事務局係長  
随行 吉田 裕之 議会事務局次長

---

## 掛川市

### 【市の概要】

静岡県の西部、静岡市と浜松市の間位置する。旧掛川市、旧大東町、旧大須賀町の1市2町が平成17年4月1日に合併し新市発足。遠州灘に面し、温暖な気候と生活しやすい地形に恵まれていることから、縄文時代には既に集落が営まれ、5世紀前後には早くも組織化された社会が形成されていた。また、江戸と上方との間に位置することから、城下町としての発展とともに、東海道の宿場町として、海上公易の中継地としての役割も果たしつつ栄えてきた。

産業については、自然と深い関わりの中で、全国トップレベルの品質と生産量を誇る茶をはじめ、葛やイチゴ、メロン、バラ、郷土銘菓など掛川ならではの特産品が数多くある。農業産出額はおよそ200億円。また、製造品出荷額は1兆2,000億円を超え、県内屈指の商工業都市として今なお成長を続けている。

### 【事業の概要】

#### ○農商工連携(第6次産業)事業への取組みについて

1. 農商工連携とは、6次産業とは
2. 6次産業を推進する背景
3. 具体的事例

～温室マスクメロンを使った新たなメロン菓子の開発と販売～

- (1) 平成25年2月、掛川市が「森林果樹公園の活性化と収穫果樹の利活用促進事

- 業」の提案を公募
- (2) ㈱タコ満の事業提案を採用し、事業実施に向け農林水産省の補助事業「6次産業化整備支援事業」の活用を図る。
  - (3) 今後の計画
    - ・平成26年度中に6次産業化整備支援事業補助金申請書を作成し、27年度当初に補助金申請を行う。
    - ・他の農業団体との連携の模索。(農作物を活用したお菓子の開発等)
    - ・市内観光農園等と連携したグリーンツーリズムの計画策定。

### 【特 色】

掛川市は、専門に環境経済部調整室農商工連携係を設置し、農業者と商工業者を結びつける際の支援や、国の補助事業を申請するまでの法認定に対する支援、補助事業推進のための県への働きかけなどを行っている。市単独の助成金事業は無く、そのための予算も計上していない。なお、来年度からは事業は継続するものの、農商工連携係は無くなり、お茶振興課として販売・生産の振興や和食の世界遺産対策を積極的に行う予定。

### ○掛川市出資の第三セクター「これっしか処」について

1. これっしか処のコンセプト（3しか文化）
  - ここしかない（独自性）、これしかない（限定性）、今しかない（希少性）
2. 消費の最前線（商品に物語があるもの）
3. 小売業を取り巻く環境（人口減少、適正規模の遵守、道徳と経済の両立）
4. これっしか処の現状
  - （地元客70%、農産物直売による売り上げの安定化、顔が見える商品）
5. 差別化された商品事例
  - （姉妹都市岩手県奥州市のりんごとコラボレートした人参ジュース）

### 【特 色】

交流人口拡大推進のための取り組みを店舗のブランド化により図っている。また、従来からあるものを活用して、日常の良さに気づき「物」にこだわらず「事」に視点を置き、連綿と繋がる人々の取り組みや生活の仕方・考え方を紐解き情報発信していくことを店舗の目的としている。

### 【所 感】

掛川市における農商工連携事業及び6次産業化事業の発展は、明治時代から地域に根付く二宮尊徳による「報徳」の精神が根底にあり、その理念に基づいて行わ

れる取り組みは、地域に以前からあるものに目を向けるとともに見直すことで、地域課題の解決に向けた新たな活動を生み出している。

（株）これっしか処の代表取締役社長、中田繁之氏のバイタリティあふれる活動は、官民の垣根を越えて信頼を構築しており、農商工連携事業というよりも農商工及び官の連携事業というイメージすら感じる。年間2億8,000万円の売り上げのうち7割が地域住民の購買、商品のうちの4割程度が地元の生産者及び事業者のものであるということは、第三セクター事業として成果があがっているといっただけ良いのではないだろうか。

情報発信や方向付け、助成制度の拡充など、行政の得意とするところを農業と商工業の連携促進において発揮することは、独自の文化や歴史を持つ地方ではおおいに有効であると感じた。

---

## 袋井市

### 【市の概要】

袋井市は静岡県西部に位置し、東は掛川市、西は磐田市、北は周智郡森町に接している。また、東海道新幹線、東海道本線、東名高速道、国道1号線、国道150号線など主要交通路が横断し、東京都へは240Km、大阪府へも320Kmと交通条件にも大変恵まれている。

平成21年度の出生率は10.3人（人口千人当たり）で県平均の8.5人を上回っている。さらに高齢化率は、平成22年10月1日現在で、19.1%と県の高齢化率23.6%を4.5ポイント下回っている。また、平均年齢も42.6歳と県平均45.4歳より2.8歳若く、比較的若いまちとなっている。

就労人口は、第2次産業の割合が高く、平成22年度の国勢調査では40.8%と県全体の32.8%を8.0ポイント上回り、相対的に「ものづくり」の盛んな地域と言える。

およそ100億円の農業産出額のうち、約4分の1が温室メロンで、クラウンメロン（マスクメロンの最高峰）として全国各地へ出荷されている。

### 【事業の概要】

#### ○袋井市6次産業化促進支援事業費補助金について

##### 1. 袋井市6次産業化研究会の設置

国及び袋井市の農業を取り巻く現状を考慮し、さらなる「6次産業化」による農業者の所得向上、雇用の確保、新たな産業の創出によるまちの活性化、さらには、農業ファンドの活用を視野に、市内農産物の大規模活用や農商工連携組織のネットワーク化の可能性等を探ることを目的として、農業関係者、商工業関係者、6次産

業化を支援する農業機械メーカー等をメンバーとする「袋井市6次産業化研究会」を組織した。

## 2. 袋井市6次産業化促進支援事業費補助金

農業の活性化と地域農作物の付加価値の向上を図るため、農産物の生産だけではなく、加工や流通・販売など、新たな取り組みを支援する。

### ・事業対象者

- (1) 認定農業者
- (2) 市内に経営耕地を有する3戸以上の販売農家が構成する団体
- (3) そのほか、市長が必要と認めるもの

### ・交付の対象経費及び補助率

機械購入費、新商品開発経費について

- (1)、(2)に規定する者は、補助対象経費の1/2以内とし、1申請につき50万円を限度とする。ただし、総事業費20万円以上の事業を対象とする。
- (3)に規定する者は、補助対象経費の2/3以内とし、1申請につき80万円を限度とする。ただし、総事業費20万円以上の事業を対象とする。

## 【特色】

袋井市6次産業化研究会を設置し、JAや地元信用金庫、商工会議所等の代表による検討が現在までに8回開催されている。補助金事業の対象となっている事業は今のところ4事業。今年度の事業予算約1,000万円、うち補助金額は約420万円となっている。来年度は500万円程度の事業予算を計上する予定。

## 【所感】

6次産業化研究会を設置し、各業界の代表による意見交換を行っているということは素晴らしいが、それが現場にフィードバック出来ていないという課題をお聞きした。

また、補助金を活用している農業者については、すでに6次産業化しているところが事業拡張の助けとしている例が見受けられた。担当課の方々の熱意と真摯な姿勢が強く感じられる視察研修だっただけに、この補助事業を糧として、新たな事業参入を図る優秀な農業者が多く輩出されることを願う。